# 京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十五年紀元二千五百七十二年
本紙定價 ▲一枚金三錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び祭日の翌日は休日（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行金六十錢▲特別廣告一行一圓▲七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太郎
印刷人 松久 [illegible]
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話六六三番 振替口座京城四二一五六番
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二一六番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町十番地

## 雜報

### ●耶蘇教概況

朝鮮全道に於ける耶蘇教布教の概況乃ち教會堂、講話所、其の他の集會所の數及外人鮮人の牧師助手數幷に信徒數を掲ぐれば教會堂、講話所、其の他の集會所は京畿道四百四十六、忠淸北道六十八同南道九十五、全羅北道百四十四、同南道百七、慶尙北道百九十六同南道百五十五、黄海道二百七十六、江原道百〇三、平安南道百八十七、同北道百四十二、咸鏡南道九十二、同北道十七にして外人の牧師は二百七十七人朝鮮人の牧師及助手は二千三百二十六人、信徒は鮮人十九萬八千五百七十五人内地人二百三十七人外人百〇二人なりと

### ●繁榮會の賣上高

舊臘十二月一日より同卅一日に至る京城繁榮會の賣上總計は金三十四萬圓余にして之れを前年度に比するに其の賣出期間が十日間長きに拘らず幾分の減少を示し居るが其の原因は前年度の如く贅澤品の賣行多からざりしに因るならんと云ふ

### ●狩獵免狀速達

近時内地より狩獵の爲め朝鮮に渡來するもの漸く多きを見るも内地にて受けたる狩獵免狀の効力當地に及ばざるを以て新に總督府の免狀を受くる迄徒らに時日と費用とを空費するの遺憾ありしが今般其筋にても之に留意し税金の送達を受くれば直に本人の所在地に對し持返し狩獵免狀を發送して急速の便宜を計るべしと

## 文苑

○元旦　田村のぶ子
こゝろさへあらたまりつゝ新玉のとしの初日に向ふのどけさ
とそくみていさゝやいはゝん千代八千代

○立春　同
かはらぬ御世の年のはしめを

○山家雪　同
日の本の光あまねしこま人もなし心に春をしるらん

○山雪　同
問ふ人はなほやたゆらん山里は道なきまでに雪の積れは

○冬月　同
ところはに目なれし山も今朝見れは姿かはれり雪のあけほの

○埋火　同
松風の音もたわたるこのまより氷りていつる冬の夜の月
霜しろき落葉の上にやとりつゝ氷るはかりの冬の夜の月

○朝雪　同
かきならしかきならしては埋火の殘りなきまてかたる冬の夜

○歳暮　同
見渡せは木々の梢に花咲て雪も朝日の影に匂へり

○新聲　松琴生
心には惜みなからもいそかれてうはの空なる年のくれ哉
初春の光りさしそひ野も山もほゝゑみかはす雪の朝晴れ

○
新しき皇國の子等も著るくうたひなれたる初春の曲

○
谷川に朝きよめして杣人のにごり酒くむ初春の朝

○
武士の騎馬いさましき元朝やいさほのしるし胸にかがやく

○
若者等向ふ鉢卷いさましく櫓拍子そろへ初落船こぐ

○新年雜吟十首　京城　小牧細月

新年鶴
幾千代も變らぬ君か御代なれは立つ年浪も靜けかりけり

新年酒
新玉の年立かへる大空に聲長閑にもたつなき渡る

新年祝世
新らしき年を迎へて酌む酒に千代の色香もこもりけるかな

新年望海
治まれる年の初日を長閑にも仰く今日こそ樂しかりけれ

朝の山
長閑にも年立つ今日の海原は浪靜かにて魚躍るらん

過太平世
大君の曇らぬ御代の朝ぼらけ仰くも嬉し不二の高峯を
平らけき御代の光りを長閑にも仰く吾身そ樂しかりける

新年宴
新らしき年を迎へて家毎に酒くみ祝ふ今日の樂しさ

新年遊興
初日影長閑に照りて民草も同し心に遊ぶ今日かな

都新年
新玉の年の初ぬの行かひに都路せはく見へにけるかな

●壬子元旦　京城　兒玉秋川
堯天開曆好風吹　隨處家々把祝巵
聖德如春々似海　一般和氣及梅枝

## 新刊紹介

●●●新に出た武俠世界●●● 日本第一の冒險小説家として青年界好評の焦點たる押川春浪氏が冒險世界を辭し渾身の勇を皷して新たに經營せるものにして春浪氏の冒險小說空中夜叉の奇絶快絶なる話あり痛絶奇絶劍道卷を掩ふに追なし殊に新年大附錄として添付せる理想の六大英雄は伊東元帥の題字に滿谷國四郎小杉未醒中村不折中川八郎吉田博中澤弘光諸氏等現代第一流畵伯の合作に成れるものにして壯麗目を眩せしむ意氣沈滯せる現代靑年の讀物として眞に絶好の好伴侶たるべし（定價金十五錢郵税一錢五厘東京馬喰町興文社發行）

## 梁川庄八

小金井蘆洲演

第七十回



勇『貴方是れにお床を敷てござい升か、と云つてゆる御寛りお休み下さるやう、と云つて行燈實絹湯呑湯沸類を取揃へ、誠にハヤ親爺が心得違ひな事を申上て何とも申譯がございませぬ、大概な方なら御立腹あるべき所を御了簡下すつて有難たう厶います、親類縁者も只今は更に出入致しませぬ私も親の事でございますから是非なき事と諦めて居りますが實に何うも論に絶れたる氣質呆れて居ります 才『イヤ決して夫れは親仰らんが宜しい孝は百行の基とやら、假にも親の事を他人に對して罵るやうな事があつてはならぬ、吝なる者に仕へて孝道を盡すが眞の孝、和漢にも間々例のあること如何に不了簡でも親は親、殊に老先きも短い事であるから大事にしてお遣りなさるが宜しい 勇『有難たう厶います是非御恩金は明朝までに…… 才『イヤ夫れは氣に掛けるに及ばぬ、併し拙者も謂はれなく御進上申す次第はないが何うあつても出來ぬものなら、決して請求ケ間敷事は申さぬ、先程主人の言葉もあつたから強ち金に目を眩る者には、進せても宜しいと申した位であるから若し工面が出來たなら甲府の國籬圓齋太夫實子の旅宿へお屆け下さい、併し手前より請求は致さぬから御心配なさらぬが宜しい、と宥るやうに申含めました、勇吉は、有難たうムいます何れ明朝……御寛り』と云て母屋へ歸つて來ると親爺は皿鉢を取片付け酒を飲んで居りましたが勇吉の入來るを見て 親『齋藥屋はモウ寢だか 勇『ハイ寢ました 親『そうか俺が酔に紛らかして不理屈を列べた所がア、男も年が若いに依て、面倒だと思つたからそんなら御子息に進ぜやうと云つた、モウあゝ言た以上は如何に金が欲しくなつたからと云つて返して呉れと云ふ事は出來まい、何事も短氣は損氣といふ事は云はれやうが味噌と馬鹿にされやうが愚んな事柄から云ひ出したことだ鞏と出すものは袖から手も出さぬやう、轉んでも只は起ぬと云ふ了簡でなくては此家の相續は出來んぞ、何んでも人間は三缺の法を行はなければ金が出來ないと云ふ事は、豫て俺が貴様に云い聞かしてある筈だ、事を缺く恥を缺く義理を缺く、此三つさへ朝夕心掛けて忘れんようにして居れば、人間に損毛と云ふものは決して無い 勇『難有うございます 父『貴様はまだ一缺も行はんやうだ 勇『左様でございます 父『それだから了簡が違うと云ふのだ、何も恥を缺いたからと云て、痛くも痒くもない又義理だの禮だのと云ふものは、兎角損の行くものだ、物を遣たり暇を潰したり、こんな馬鹿氣た事は世の中にありやしない、人が何と云はうがそんな事に頓着するやうでは金は溜らぬ、又事を缺くのも自分の爲にすることなら文句はねへが、人の爲に物事をして遣たり、日待や祭禮の交際をすると云ふのは以ての外の事だ、能く此三缺の法を心得て忘れぬやうにしろ 勇『毎度有難うございます 父『今夜は何處へも行かずに寢て了へ 勇『寢ます 父『内の奉公人は今日明日はお祭日だと云て、天下晴れて騒いで居るが奉公人根性と云てあれだから困る斯う云ふときに、草鞋の一足も造つて置かうとか草の一駄も苅て來ると云ふ了簡のものでなくては錢金と云ふものは溜らぬ、夫れを主人から暇が出たから宜いはと云て騒ぎ廻つて歩くやうでは迚も見込が立たないな、先だつものは錢金だ、一年と二年の給金を主人に預けて置くやうなら頼母しいが、彼奴も此奴も前借ばかり爲たがつて、然うしちや祭と云へば夜更まで遊んで腹を減して歸つて來て、此穀高に大飯を喰らつて、何とも呆返つた奴等だ店の遊びに行けば五十と百の錢は遣はなければならぬ貴様は早く寢て了へ』と云いながら立上つて戸締をなし、勇吉は火の元を見廻つて親子共に床に就きました 父『をつと忘れたことをした 勇『何ですね父さん 父『何だちやねへ寢て了ふに燈火は要らねへ第一不用心だ』と云ひつゝ燈火を吹消して了ひました何處まで吝嗇なのか底の知れぬ男でございまする、長左衛門は最早酒に酔ふて居るものでございますから床に就くや否や直ちに寢て了ひました

## 東京電報

▲動員令の風說 某師團に對し動員令下りたりとの風說あるも當局者は一切之が有無を語るを避けをり

▲觀兵式に行幸 來る八日の陸軍始め觀兵式は例年の如く畏くも天皇陛下行幸仰出さるべし

## 北京特電

▲媾和違反の抗議 袁世凱は伍廷芳に打電し抗議して曰く革命軍は國會にて政體を決定すべく承認しながら南京に於て大總統を選擧したるは媾和會議違反なり速に之を取消す可しと [illegible]

▲外蒙古の獨立 外蒙古は遂に獨立を宣言す [illegible]

▲兵備干渉を望む [illegible]

▲在留民の避難 各國在留民は [illegible]

▲親貴連の汲々 北京の親貴連は [illegible]

▲朝野益々震駭 [illegible]

## 上海特電

▲政府軍の動靜 [illegible]

▲孫の諭告好評 孫逸仙の [illegible]

▲獨紙嘲笑 [illegible]

## 雜報

●恩賜公債と損失 [illegible] 全部轉賣の場合に於て同行の受くる損失は實に三十[illegible]萬圓なるべしと云ふ

●下半期の手形交換 當地手形交換所に於ける昨年七月一日より十二月三十一日に至る下半期間の手形交換枚數は[illegible]萬[illegible]五百十四枚にして同金額二千八百二十六萬八千百二十五圓五[illegible]

●鮮人需要 日本に [illegible] 製してキヤリコを製造 [illegible] 所は其の數極めて少な [illegible] 販路は重もに内地の需 [illegible] めにて其の供給高も年 [illegible] 而して輸出先は重も [illegible] 國に於ては英品との競 [illegible] 昨今のところにては [illegible] あらざるも將來或る方 [illegible] 打ち勝つを得ば其の [illegible] 途もなかるべし而して [illegible] より朝鮮に着目し昨 [illegible] 擴張に腐心しつゝある [illegible] は寒暑を通じてキヤリ [illegible] なり居るを以て將 [illegible] は或は内地のそれに [illegible] いたるやも測られず [illegible] 白衣を厭ふの傾向あ [illegible] 利用して恰好なる色 [illegible] なば意外の歡迎を博 [illegible] とのことなり

●教育勅語の送附 豫て印刷中の勅語は六日より各道 [illegible]

●總督と記者團 既報の如く寺内總督は六日午後六時より同官邸に當地新聞社長並に通信社長並に特派員を招待し饗宴を張る等なるが同時に山縣政務總監、兒玉、桑原、[illegible]大佐、境警視、荻田 [illegible]

●總督と各領事團 寺内總督に [illegible] 當地駐在各國領事 [illegible] 宴を開く筈

●陸軍始と駐鮮軍 來る八日陸 [illegible] 司令部にて上田軍司 [illegible] 儀式のみを行ひ別に觀兵式等擧行せらる [illegible]

●各寺總代の年賀 六日午前十 [illegible] 内外五名は朝鮮宗派 [illegible] 總督を官邸に訪ひ新 [illegible] に山縣政務總監を [illegible] 挨拶を述べたり

●大阪の朝鮮貿易商 大阪 朝鮮の貿易は年を逐ふに從つて頻繁を加へつゝあるが或る筋の調査になる [illegible] 重なるものを掲げんに [illegible]

買次、委託問屋十五、米穀類商四十、海産物乾物類商九、鑵詰食料品商五、茶、菓子商八、酒醬油味噌類商八、果實食品粉類六、諸織物綿類商十八、タオル、メリヤス類商十、系物類商八、帽子鞄手類商十、小間物文具商十九、雜物商四、足袋類商七、履物靴商九、紙類商十七、藥品及染料商十二、油商四、木材建具商十、室内裝飾具商十、漆器陶器磁器商六、玻璃類商四、金屬類商二十一、器械器具類商十五、繩莚叺商四、

●取引所發起人の意向 京城 京城取引所設立認可申請は舊臘二十八日附を以て不認可となりたるを以て釘本外十餘名の創立準備委員は本月中旬を期して委員會を開き其の上にて發起人會を開催する豫定なることは既報の如くなるが要するに一同の意向は今後飽迄運動を繼續すべく從つて積立金の如きも從來のまゝとなし委員等は昨今之れが善後策に就き協議中なるが何れ二月上旬頃にいたらば何等かの方法の下に決議の成案を見るにいたるべしといふ

●商工調査會開會 京城商工調査會は定例に依り來る十日開會の筈なるも年頭に際し會員中差支あるもの多き爲め四五日延期し十五、十六の兩日中に開會すべしと

●内務部長會議提案 來る十五日より開會さるへき内務部長官會議に提出さるべき各部議案は既に審議終了して目下印刷に附されつゝあるが會議は多分四日間位にて終了すべしと云ふ

●鮮人と年賀郵便 …櫻井光化門郵便局長談…

◎朝鮮人が通信機關を利用することの著しく増加したるは誠に喜ぶべき現象にして全く其經濟にして便利なることを知るに至りたる結果なり特に年賀郵便を利用することの内地人に比し多きは驚くべき程にして先づ普通の生活程度の人物が一人約百通乃至二百通位を出し少しく地位を有するとか交際の廣き人とかに至れば三百通以上を數ふ

◎從來朝鮮人が年賀を郵便にて爲すと云ふが如きは内地人と交際ある人位にして朝鮮人間には見ざる處なりしが昨年よりポツ〳〵年賀郵便を出すものを見たるもこれとても官吏か會社員位にして一般的には行はれざりし也

◎然るに四十三年十二月十五日より同月二十九日までの年賀郵便特別取扱ひたる數が八萬八千九百七十二通にして内朝鮮人の出せしもの僅かに一萬八千六百五十二通に過ぎざりしも昨四十四年十二月十五日より同月二十九日まで取扱ひたる年賀郵便物は十六萬四千五十三通の内實に十萬千七百八十通は朝鮮人出なりし是れ全く朝鮮人が通信機關を利用することを知るに至れるが爲なりと言はずんばあらず

◎殊に其差出人が官吏會社員と云ふ一部の人物に限られず殆んど一般的となるに至りしより斯く頓に増加を見たるにあり猶ほ朝鮮人は近所隣と雖も回禮に代ゆるに年賀郵便によるを以て自然内地人より其數の多きに至るは當然なりと云ふべし由來朝鮮人は文筆の民なるを以て今後郵便物を利用するは内地人に優るも決して劣らざるは疑ひなき所にして年賀郵便に於て之を證するを得べし云々

●米穀税撤廢と東上員 朝鮮米穀移出關税撤廢問題に關し在鮮商業會議所聯合會より來十五日頃一名の委員を東上せしむべく尚群山農事組合にても右に關し來る十日一名の組合員を東上せしむべしといふ

## 各銀行會社營業成績(其二)

…四十四年度下半期…

十八銀行京城支店 第十八銀行京城支店に於ける四十四年度下半期の營業成績は之れを前年同期に比較するに預金貸出共に大體に於て幾分の増加を示しつゝあり即ち預金總額五十萬八千餘圓貸出總計八十三萬七千餘圓にして先づ之れを諸預金の平均高に於て見れば定期預金は一割、當座預金は一割五分、小口預金は一割一分を増加し唯雜種預金に於て六割の減額を示す又た貸出は其の平均高定期貸出に於て四割七分、當座貸附に一割五分、割引手形に一割九分五厘の増加を示し居るが同半期の利益金總額は八千八百五十圓にして之れを前年の同期に比較すれば二割二分の減少を來す割合にして斯く利益金の減額を來せる所以は前年同期に比し金利の著るしく低落したるに依るものにして其の爲め貸出現金共に幾分の増額を示すに拘らず斯くの如き結果を來せるものなりといふ

●商議役員會の開會 八日午後五時より京城日本人商業會議所役員會を同所樓上に開き黃金町より光熙門にいたる道路擴張問題及び米穀移出關税撤廢問題に付き協議する由

●菓子商組合の總會 京城菓子商組合にては八日午後一時より京城日本人商業會議所に於て總會を開き組合規則等につき協議し終つて役員の選擧を行ふ由

●朝鮮の海苔養殖地 朝鮮の海苔は慶尚南道より全羅南道の沿岸に掛けて採取さるゝが昨之れが經營は鮮人の幼稚なる方法に依りて採取され内地人の採取者の殆んど之れなきは遺憾とするところなり而して更に鮮人は從來專ら採取の一方にして養殖の道を講ぜざるため或る一部の個所を除けば現今のところにては殆んど海苔稱の盡き居るといふも不可なし蔚山の大和川、蟾津江の如きは將來有望の個所なるが洛東江の如きも將來移殖の見込充分なり現に一昨年岡山の人にして洛東江に海苔の養殖を爲したるものありしが昨年之れを廢したりといふ道は畢竟河川に對する研究の足らざる結果に外ならざるべし而して全羅南道と慶尚南道の境なる河東の如きは場所は狹小なるも將來養殖の個所としては好適にて現に多くの鮮人に依りて經營され中に内地人の經營者もなきに非ず更に朝鮮の海苔は熊本海苔に酷似し東京の二三等品位に匹儔し居れり而して更に海苔事業は殖林事業と密接の關係を有し居るを以て將來朝鮮に於て海苔事業の盛んならんことを欲せば先づ殖林を行はざるべからず幸ひ當局にあつても殖林には力を注ぎつゝあれば將來之れが事業の發展を相俟つて海苔事業の盛んなるにいたるべきは言ふ迄もなかるべしと水産當事者の一人は語れり

●朝鮮總會期 朝鮮銀行第六回株主定期總會は來る二月廿日東京商業會議所に開會する事に内定し市原總裁は來月早々東上すべしと

●朝鮮銀行移轉期 朝鮮銀行新築の行舍は愈々落成し付來る二十日移轉に決定し同日官民數百名を招待し盛なる披露宴を催すべしと

●縣洞新市街近況 鎭海灣縣洞の新市街は家屋建築既に六百戸に上り料理屋其中七十戸に達し居住者も日々増加しつゝありといふ

●群山取引所の不認可 群山の有志等は豫て同地に取引所を設立せんことを計畫し客年十月之れが設立認可申請書を其の筋に向つて提出中のところ舊臘二十八日附を以て京城と同じく不認可となりたるを以て發起人一同は昨今之れが善後策に就き講究中なりといふ

●宮尾拓殖局部長歷訪 滿洲各地視察の後平壤を經て五日入京したる宮尾拓殖局部長は六日寺内總督、山縣政務總監、昌德宮殿下等を歷訪し夜間は豪華會の招待宴に臨みたるが七日朝仁川に向つて出發の筈なりと

●中橋氏の仁川有志招宴 大坂商船會社々長中橋德五郎氏は仁川官民有志數十名を七日午後五時八坂樓に招待し盛宴を張る由

●中橋德五郎氏の再入京 大坂商船會社長中橋德五郎氏は鎭南浦平壤方面視察中なりしが六日午後平壤より再び入京天眞樓に投し九日午前出發歸坂すへしと云ふ

●三島鮮銀理事東上 鮮銀理事三島太郎氏は第六回總會準備及國庫事務の要務を帶び七日出發東上の筈なりと

●寺内陸軍少佐の發着 新に墺國大使館付武官補佐官に任ぜられたる少佐寺内壽一氏は赴任の途次五日午前九時十分南大門驛列車にて入京總督官邸に一泊父伯總督に別辭を述べ六日午前九時四十分發列車にて西比利亞を經赴任す

●武田憲兵中尉着任 警務總監部保安課次席高田大尉の後任として六日武田中尉着任せり

●淨土宗青年會講演 淨土宗青年會にては六日午後六時より淨土宗開教院に於て例會を開き隈本總督府中學校長久家開教使の修養に關する講演あり終つて會員各自漫談を試み十時過散會す

●仁川消防組新年宴會 仁川消防組にては五日午後三時關係者百五十余名及び新聞記者等を淺岡に招待し新年宴會を催し消防小頭光田百太郎氏の挨拶槌口民團助役の答辭あり主客十二分の歡を盡し七時散會す

●濟州島民頑迷 臨時土地調査局堀坂技手は三角點標建設の爲全南濟州島へ出張中客月十二日漢挐山頂に一個を建設し十八日には牛島に同標一個を建設せんとしたる處里民四百餘名集來して其建設を拒み如何に事理を論すも肯せざるのみならず強て建設せば打殺すべし等と揚言し不穩の模樣あるを以て堀坂技手は止むを得ず同地を引返し十九日には全面飴達里に同標建設せんとしたるに又々里民集來し不穩の狀ありしかば同地警察署に於ては此の急報に接し直に警官を派し懇諭する處あり漸くにして其の建設を了したりと

●宮尾拓殖局部長の歡迎會 各部長官發企となり七日午後六時より花月に於て目下滯京中なる宮尾部長の歡迎會を催ふすにつき何人にても出席希望者は度支部の久芳氏迄申込むべしと

●京城繁榮會の抽籤 京城繁榮會主催の年末大賣出に對する景品券に付七日午前十一時若草町商業會議所に於て抽籤執行す

●市原鮮銀總裁引籠 鮮銀總裁市原盛宏氏は去る二日以來熱海持病の肝臟病にて引籠中なるが病勢輕快に赴き一兩日中には出務に至るべしと

●總監部の家族新年會 憲兵司令部、警務總監部在勤高等官の家族は八日午後二時より明石司令官々邸に參集新年の祝詞を兼ね宴會ある由なり

●黃海道と甘藷栽培 黃海道黃州附近に於ける甘藷栽培は從來小數なる在留支那人によつて營まれ成績良好ならざるにあらざるも價格高價なるため一般的に之れを食料に供すると云ふ譯にならざりしが近年は所々に鮮人の手にて甘藷を栽培する者あり或部分の貧困鮮人には之を代用食となす者あり又同地方の地味は甘藷に適するより近々大規模に之が栽培をなさんと鮮人間に計畫中なりと

●會計局員の書初會 總督府會計局にては六七兩日倭城臺のクラブに於て局員一同の書初會を催ふす由なり

●初春の地方米況 京釜沿線中米の集散地たる大邱慶山倭館に於ける初春の米穀初取引の狀況を記さんに

▲大邱 玄米上十三圓二十錢並十二圓五十錢の出來値を唱へ昨年と比較すると概して四圓見當高なり大豆は概して取引少なく慶山物六圓二十錢に二日初荷として兵庫に八十八叺を輸出せり

▲慶山 玄米の取引は更になく兵庫に向け大豆四車の初輸出あり相場は舊臘より聯か高値にして上七圓二十錢並七圓十五錢にて大豆は益々好况に向へり

▲倭館 初取引の顧客は殆んど京城にして相場は玄米上十三圓十錢並十二圓六十錢大豆上六圓六十五錢の出來値なり

●釜山水産會社利益配當 釜山港の釜山水産株式會社四十四年度下半期に於ける利益配當は一割五分の見込なりと

●莚叺製造傳習 京畿道にては管内農業者にして米の收穫調製上一般に莚を使用せしめば朝鮮米の一大缺點たる土砂の混入を防ぎ且つ穀物乾燥上便益あると信じ一般當業者に内地式普通莚の使用を實行せしむる計畫なるが夫れに付き簡易なる之が製作法を普及せしめて以て自家の用を便にすると共に移入を防止する目的にて一月十日より二月十日迄三十日間各府郡に於て莚織及叺製造の傳習を行ふ員は農家の子弟中より [illegible] 中は一日十五日の辨 [illegible] 其入員は京城府一回は一ヶ所十四名宛な [illegible]

●愛婦人會新年會 [illegible] 部役員會員有志は七 [illegible] 京城ホテルに於て新 [illegible] 催する由なるが當日 [illegible] 興ありと

▲京龍兩驛の貨客

▲南大門驛乘降客(五日分) 乘車人員 八九三 [illegible] 乘車賃金 一七五九、[illegible]

▲南大門驛荷扱高(五日分) 發送貨物 三五 [illegible] 貨物賃金 一八五 [illegible]

▲龍山驛乘降客(五日分) 乘車人員 二五九 [illegible] 乘車賃金 二〇三、四 [illegible]

▲龍山驛荷扱高(五日分) 發送貨物 四 [illegible] 貨物賃金 一四三、六 [illegible]

●取消申込 昨年十二月 [illegible] 第二面雜報欄京城實業 [illegible] 兩人が家庭新聞を買收 [illegible] 發行云々の記事有之候 [illegible] 根の事に付御取消相成度此段申込み候也

釘本藤次郎
小林藤右衛門 印

京城新報社御中

## 公人私人

▲鈴木德太郎(辯護士) 四日投宿山本旅館
▲磯野公彰(遼東日報記者) 同京城ホテル
▲宮尾舜治(拓殖局部長) 同天眞樓
▲富家正義(參政課技手) 同出發開城へ
▲原々三郎(濟通丸事務長) 同仁川へ
▲米倉清族(撫順炭坑長) 同釜山へ
▲南部重遠(安東新報主幹) 旭旅館投宿

▲京城手形交換高

一月六日 金高 三〇〇、二九六、二八〇 枚數 二四六九

## ▲治外法權▼

精神一到何事不成、孫逸仙も遂に大統領に撰擧されて南京城へ入つた、サテ內閣も出來て見ると、之からは破壞の代りに建設の大業、孫文果して此大任を遂行し得るや否▲兎角の評はあれど孫は偉らい男、彼れが新國民に向かつて無我的宣誓をしたところ僅かに華盛頓の趣がある▲孫は太平洋中のハワイで育ち、其醫學以外の教育を同島のプナホウカレーヂと云ふ極めて謙遜な殖民學校で受けた▲之と似寄つた話は彼の有名な伊太利統一三傑中の一人ガリバルヂーも久敷南米の殖民地に住し、其殖民地で鍛ひた頭腦と手腕とを以て故國統一の偉業を爲した、サテ之を以て是を見るとコロニアルマン乃ち殖民地人も決して馬鹿にはならぬ▲今や在鮮内地人二十萬餘、而して此中に如何なる人物が居るかは記者の知らぬところだ、只だ願ふは我殖民人が、常に本殖民地に於て其頭腦と手腕とを鍛ひ、他日國家の偉材となることを期せんことだ▲附記す、殖民人ぞて本國人に聯はらぬ、一度錦 [illegible]



●鴨綠江の橋と氷(二) 天翼生

汽車は龍山驛に紋付羽織袴、禮帽禮服の團體者の幾十人かを送り、又其幾人かを迎へて蕭條たる小平原を烈風を衝いて進む、水色驛に近き一部落の草葺屋根悉く新らしく戶毎に眞新らしき旭日旗を飜す、温突の烟細く立ち騰りて玆に瑞雲搖曳の祥を見る、送り迎ふ山村水廓旭日旗の翩翻を見ざるなし、之れを見て直ちに德政の餘威と成し徒らに萬歲を唱ふるものあらば我は我半島統治を過つもの、古來德に懷きて之れを頌するは鮮く威に畏れて此に阿るが多しとぞ聞く爲政者たるもの內に慚み外に戒めずして可ならんやなど思ひつゝある間に汽車は既に水色一山を過ぎて金村驛に入る構內に木炭を積み上げたり、一山、金村は共に薪炭の積み出し驛なりとか、併し乍ら右顧左眄た所其木炭を造るべき森林らしきもの眼に入らず要するに朝鮮の木炭は石炭と同じく土中に在るらし葉を焚き枝を焼べ幹を燃し猶飽足らで根を土中に求めて此をも灰となすなり、悲しむべからずして敷ゆべし、此れ政令の普及よりも更らに急務なればなり、構內に六歲斗りなる男の兒と女の子と七ツ八歲斗りなる男の兒と女の子とあり嬉々として戲る、女の子は各毛糸の肩掛けしつ男の兒は筒袖紋付に毛糸の頸卷長く結び垂れたり驛員達の愛子にやあらん。

元日のこゝろで遊べいつまでも

と意味深長らしく賦何る、構外に郵便切手賣下所の札掲げたる家あり遞傳所にやあらんか主人らしきは温袍して門に樹てたる旭旗の下に居蕃に染めたる赤き顏を『風に吹かれて居る哩ナア』の格にて佇みてありしが熟てツカ〳〵と構內に入り上り列車の着くべき側に蹲踞び烈しく寒く吹く風も氣付かぬらしふ膝に肱立てし手に顎を乘せ煙草燻らして我等が列車を眺めつゝある开が宿の少しく引き開けし障子の隙よりも女の紅なる顏差し出して同じく物珍らしげに打ち見戍る、內儀なるらし。元日にしても悉く珍らしき大君の惠及ばぬ限もなにぞあるらん、く太平の群は此夫婦が顏にも治し、此邊より畓畑多く耡きかへされて、麥の芽は寸餘を青く霜柱に抽く。

ホントウに芽出度い麥の青み哉

なりと獨微笑して居ると便所に立つた田中君が『何か嬉し相ぢやないか』と肩を叩く『芽出度い麥』と指す『文祿の役には皆屯田制を採つた爲め日本軍駐屯地方の耕耘方法、農具等は日本內地に酷似してるよ、此地等は就中發達してる樣だな、左樣さ戰爭だつて血斗り流すものぢやないよ』と、田中君が企て及ぶべくもあらぬ極端なる平和を唱ふる者の群に在つて而して能く今日迄其身を傷らざるは此妙諦に悟入して居た爲だらうと又微笑れた、汶山驛にて京城から迎わた蜜柑箱提げし鮮婦人一人を無事に此所に送り屆けて汽車は穩かに驛を放れる。

●郵便物の誤配

▽誤配を受けた人の注意

新年の郵便物は年賀狀の爲に非常に其數を增し從つて誤配遲配等の多きは每年の事なるが本年は例年に比して年賀郵便物の取分け多かつた爲でもあるか誤配の件數も例年に比して特に多かつた樣だ、左は乃ち本京城新報社の郵便函へ誤配されたる郵便物にして其宛名を一見すれば本社の郵便函へ投入さるべきものに非ざるは瞭然なるも如何にせん事實は事實にして之を打消すべくもあらず。

| 種類 | 名宛人 |
|---|---|
| ハカキ | 西小門內シンガーミシン 楠正吉 |
| 信書 | 開城專賣局出張所 上林敬次郎 |
| 信書 | 高等法院 清水潔 |
| 信書 | 朝鮮京城大審院 渡邊暢 |
| 封筒入名刺 | 京城米倉町朝鮮總督府官舍 河內山樂三 |
| 同 | 同米倉町朝鮮銀行社宅 木村雄次 |
| 同 | 同米倉町總督府官舍 豊田多賀雄 |
| 信書 | 京城高等法院 高地安美 |
| 同 | 京城日の出町官舍 太田喜太郎 |
| 同 | 朝鮮高等法院 渡邊暢 |
| ハカキ | 西小門外官舍 輪千光久 |
| ハカキ | 同橫松館內 鳥谷光五郎 |
| 同 | 京城旭町二丁目韓國銀行社宅 出石いね子 |

以上十三通は本社へ誤配されたる郵便物の數なるが此種の誤配は本社の外にも多々あるべしと信ず附記す誤配を受けたる本社は受信人の迷惑を察し該郵便物の紛失破損せぬ樣意を用ゐ本日夫を一纏として郵便局へ返還したり願はくは他の誤配を受けたる人々の本社同樣の手續をなし郵便規則の違反者とならざる樣勉められんことを。

●子歳藝妓の氣焰

會員 井門鶴吉、清水席權助、玉家伊達子、開進亭榮、清華亭金五郎、とん子

清華亭 金五郎 とん子

金 此方へたはいい、はちが廻つた譯ですね、お話だの氣焰だのなんてものがありますかよ、モウ此寒さで朝鮮も藝妓も厭になつた……エ、彼の人でも無かつたら今時分は前は京城に居ない筈なんだなつて、好かつたねホ、、、と思ひ出し笑ひと云ふ奴、貴方の職程暢氣な事はありますまいね、ホントに早く暢氣になりたいワ、子歳生れでチヨと呼ばれる藝妓稼業、マ何んて聞が惡いんでしようね、エ、自亭で子歳と云へばとん子さんと妾限り、夫で生れ性とか云ふものでしようね〳〵兩人とも大の鼠好きで何日もお菓子を買つて遣り遣りするものですから先方でも馴れて毎朝鏡臺の上をチヨロ〳〵しますのよ……マ憎らしいこと、其所爲でしようか私達二人は決して他人樣の如に鼠に衣裳を切られた事がありません私等兩人は子歳生れと云ふ次第で特に懇意にして居りますのよ、而して申合はして居ますのはメカケさんとしては決して落籍されまいと、例令勞働者でも薄給の月給取でも共稼ぎする人とでも晴れて夫婦と呼ばれたい、と生意氣らしく聞ねますか知れませんがね、左樣云ふ風に考へて年滿きを指折り數へて待つて居ますのですがね應うにも恁うにも彼の景氣ではね〳〵、四十五年は一つ陽氣に願つて私達の如な者でも相當稼がして頂かなくては天晴な理想を實行する譯に參りませんワ、エ白鼠のお鶴も可愛がるかつて、知らない事よ、兎に角私達は子歳生れと云ふ所から毎月七八十錢位は鼠に餌を遣りますよ、と奇拔な事を申して居る。

●新町遊廓券番設立魂膽

▽藝妓の鑑札で娼妓稼業

本月一日より新町遊廓に同組合券番なるものを設立せしが其內容に就き下の如き魂膽ありと傳ふる者あり即ち表面の趣旨は第一種藝妓即ち第二種藝妓と稱する娼妓に屬せざる市中一等料理店抱へ若くは券番に席を有するものと同一に客席に侍して其興を副くる藝妓を置きて遊廓の發展を計る爲めなりと云ふも裏面の魂膽は年齢不足にして(十八歳未滿)第二種藝妓の鑑札を受く能はざるものを少額の前借金にて抱へ來り第一種藝妓の年齢に制限なきを利用して鑑札を受け券番に席を置きて其實娼妓同樣枕席に侍らしめて不當の利を貪らんとするにある如しと而して目下同券番に席を有する者は七名丈なるが右は從來遊藝稼人なる名下に各樓にて二枚の不足したる塲合一時間六十錢宛にて格に應じ居たる亭主持にて年齢三十歳以上の者のみなるが券番手數料を要する爲め從來一時間六十錢の線香は七十二錢に値上げせしも郞藝妓に遠出花を許可されざるを以て目下の所券番費用に不足するより現在の各樓抱二枚の三味線を券番に集め其稼高の一割宛を手數料に取得せんとの案を立て組合總會に持ち出したるも三四樓主の烈しき反對を受けて一決せざる樣子なるが既に二枚なるがある以上又別に藝妓を必要する理由は無い樣にも思はるれば或は第一種の名に隱れて第二種に屬する行爲を爲さしむる準備なりと云ふ噂も滿更嘘とも思はれず取締上の困難は又一つ增したものらし




●琵琶藝妓艶子の頓死

▽龍山八景園に於て

當地一等料理店花月樓に於て琵琶藝妓として曾禰故統監の寵遇を蒙り歿後は令息芳川寛二氏の殊遇を受け他人が羨の的となり居しが同氏歸東後は暫く觀みなの世の有樣を嘆じ居し名妓艶子間も無く明石少將閣下の深き思召に依り藝妓置家蟬丸の看板を上げしも好事魔多し都合ありて閣下より暇を賜りて後は郷里大分に手馴れし琵琶を搔き鳴らして暮らす中手許不如意となりしより惡心を起し昨冬再び渡來して南山町京城ホテルに陣を構へ活動の甲斐なしと見て取つたる後は頻多き親類筋に一株二株と株金の拂込を命じ何やら一旗揚げん計畫中の正月五日或る大株主に伴れられて龍山八景園に出動に强ひらるゝまゝに强か飮酒し更に最後にウヰスキーを呷りし午後八時頃俄然腦溢血を起し急死したりとぞ前半生の花々しかりし丈け哀れも又一層に御親類筋の御愁傷もさこそと推せらる

●運の惡い十人娼妓

▽見付かつたのが此丈

新町遊廓君の江樓梅香事五百木ミチヱ(二八)清月樓文之助事石原ウタ(二七)同樓若松事山口キミ(二六)大和新地大和亭一龍事村井ヒデ(二四)小梅事小寺ウノ(二一)太平樓八千代事本田モイ(二三)梅子事武石イセ(二六)小蝶事立木チヨ(二六)玉子事宮崎セイ(二〇)福本樓政子事奧野イマ(二五)同百夜事森ヤツ(二〇)十名は何れも昨歲末に外出願を病氣見舞の爲め病院若しくは郵便局迄と屆出で其の實各馴染客に無心の訪問に行きし事發覺し各罰金一圓に即決され同時に以後斯る事及無屆外出の塲合は拘留處分す可き旨嚴重なる說諭を與へ放還されたるが不明分は未だ澤山

●職務熱心な密偵

▽感じ入つた働振り

京城靑坡町石橋契十九統三戶金在明(三五)は警務總監部小野刑事の密偵なる由にて職務熱心の爲めか六日午前十一時頃靑坡町韓史公方にて岡山縣人當時住所不定山田吉長及山口縣人當時住所不定山本彌二郎等が賭博開張中なるを探知し檢擧す可く現塲に出張したるに山田山本の二名は逃走したるより韓史公を賭塲開張犯として西大門分署に告發したりと

●增長せる外人娼婦

本町一丁目大和軒雇人溝邊德太郎(二三)同岩崎善六(二五)旭町二丁目福田福太郎の三名は一杯元氣にて四日午後十一時頃新町遊廓露國人料理屋を素見し硝子戶を打ち破り損害金二十五錢を支拂ひ事濟みたるが全體該娼婦も惡いのなり

●子供の出來心か

太平町一丁目川口運漕店雇人小野給(十四)は京城曙町八十六番戶吉光ハヤ方店頭にて現金二圓五十錢入り財布を窃取し南部署に捕はれ取調中

●仁川の出刃騷ぎ

仁川寺町二丁目西田方原籍廣島縣生れ內野網吉(三二)は暮れの二十九日午後三時頃福岡縣生れ田中五郎(二七)と同家にて互に爭論の結果出刃庖丁を以て田中の後頭部に斬付け重傷を負はしめし騷ぎに仁川署に引致され取調中の處六日檢事局送りとなる

●演藝だより

▲浪花館 阪地落語音曲界の重鎭にて鎗錆の元祖三遊亭圓若一座の落語手踊り每夜〳〵の大入札止め早く無いと誠にお氣の毒樣を食つてスゴ〳〵引き返しの仲間入となるべし

▲歌舞伎座 此所も每夜大入續の改成義團一行七日八日兩日の代狂言は一座得意の『通夜物語』全七幕にして正四時開演重なる役割は左の如し

玉川清(岩田)丁山(石藤)玉川重兵衛(今井)久世操(月田)同友房(月本)馬丁平助(楠本)久世信子(松島)同れ順(菊地)篠山六平太(水谷十太郎)

▲壽座 若島屋一行の舊劇面白い事限りなしとあつて元旦からの大入續きと芽出度し七、八兩日の演物は前『芦屋道滿大內鑑』中『太功記杉の森の塲』切『吃又平惣抜けの塲』にして役割は狐葛の葉、安部保名、孫市妻雪の尾吃の又平(嵐信藏)左近太郎、石川惡左衛門、中川清秀(中村珊京)乾兵馬惟任六郎、下女お鍋(阪東調之助)加藤の後室、鈴木孫市、歌之助(片岡長治)信田庄司、鈴木重成、土佐將監(阪東儀調)奴與勘平(玉六)



日曜集會

▲メソヂスト教會(旭町二丁目)午前十時日曜學校同十一時より禮拜說教『年頭の祈願』午後七時半より傳道說教『我等が父』ありと

▲日本基督教會(旭町四丁目)午前九時より日曜學校同十時より『神の偉大』なる禮拜說教午後七時半より傳道說教

▲京城基督教會(相生町)午前十時半より禮拜說教『年頭所感』午後七時より『希望の生活』なる傳道說教あり

▲微笑會(臨濟寺)東七軒町なる同寺に於ては例の如く圓山太嶺師の碧巖錄提唱あり參禪隨意

▲初週聯合祈禱會 當地基督三教會にては例年通り八、九、十の三日間午後七時より聯合祈禱會を催し以後三日間は教會別に祈禱會を催す由なり



